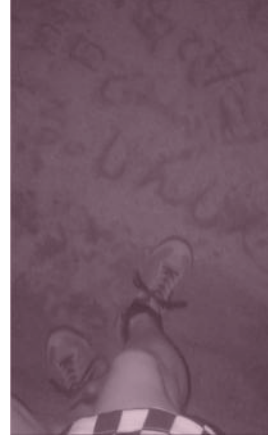


東京 自宅

6/13 松本

マイナンバーカードを受け取りに行った。本人確認のための顔を見せるために2回マスクを顎におろした。わたしの顔を見てもおじさんにもおばさんにもわたしがいまお腹が痛いことはわからないでしょう。それはいいんですが、放っておいてもらっているんですが、商店のあいだをあるいているとまわりよりわずかに暖かい体温を皮膚のうえにまとっている感触がして、すべてnumbに感じる。numbとは英語で無感覚や麻痺という意味ですが、歯がなくても発音できる音のつらなりのほうがこの状態をいいえている気がするのでもむということにしている。逆方向の電車に乗り多摩川の土手についた。草や水やタバコのかす、いろんなものが揺れていた。土手はまぶしかったのでまもなくかえった。それからただ家でお仕事をしてじっとしているだけなのに、さきほどからしたばらにのっぺりと吸い付く黒黒とした痛みをいちにちじゅうひきずっている。あと8キロくらいある。



経血をどこかに埋めるとすれば、どこに埋めますか。

ドイツ  
カッセルのホテル 雨  
8/5 前田  
月経のことはふと思いで出して 月経の存在を確かめる  
感じで  
ああー、この日も痛いんやなーとか。  
月経日記を読むことで、日常に月経がやっとなっていく。

ずらっと並んだ7月の日記をみてゾワッとしました。  
日記という性質もありますよね。



ニューヨークの私のスクールが、「骨盤の真実の館」と呼ばれていることに、私は戸惑ってしまう。それは、ダンスにおけるたくさんの動きが骨盤の押しにもとづいているせいであり、私が生徒たちに「あなた、全然ヴァギナ動かしてないじゃない」と言っているせいである。団員のひとりにもこう言われたことがある。ジュリアードの卒業制作のために私のバレエ『天使の戯れ』を教えたときのことである。指導が終わると彼は、マーサ・グレアム・ダンス・カンパニーは男がヴァギナ願望に苦しむ全米唯一の舞踏団だ、という印象を抱くようになったのだ。マーサ・グレアム『血の記憶 マーサ・グレアム自伝』新書館、1991。

炭鉱で働いて一番嬉しかったとは、西新炭鉱へいったときです。あそこは男が一円ならおなごも一円ですばい。おなじ仕事をしますとじゃけ。そして、ほんなことおなごのほうがよう仕事します。函押しですか、あんた、おなごはケツの力が強いですけ。坑内ではどうしても函が動かんなら背中を押しますと。天井に両手をかけてですの。カンテラを歯で噛んで。天井は低いですが、岩盤に突っ張ってケツの力で押ししてじりじりっとやりますたい。

森崎和江『まっくらー女坑夫からの聞き書き』岩波書店、2021。



大阪・京都  
8/25 内田  
今日の夢は、イオンみたいな所の舞台上で友人たちが単調なステップを延々踏み続け、そのなかのひとり

はカンパニーという演目のミュージカルソングを唄いあげていた。目が覚めても覚めても眠い。体を起こす気には毛頭なれないし、横に寝返るのだった。手探りでスマホの在りかを探し、いまの時間を確認しようとするが、目があかない。時間をかけて、徐々に体を覚ましていく。ぼんやりとパンツの中を思い、早くナプキンを新調したいと願う。重い体を引きずって、とにかくトイレに向かう。今回はいつもより固まりがおおく量が少ない。目がきちんと覚めてくるとだんだん肩が軽くなった。そういえば昨日の帰り道意味もなく、私はとんでもないダメ人間なんじゃないかなんて思ったりしたけど、これも多分生理のせいだ。肩が軽くなったら、何がそんなにダメだと思ったのが分からなくなった。

芸センでの稽古初日。今日は四股もたくさん踏んだ。股を開いて地を踏む動きとともに、たまに出る感覚がある。子宮の形、卵巣の場所がいつもより感覚しやすい。子宮をこねる動きをしていたら、生理痛に苦しめられていることに対して、復讐心がわいてきた。

子宮がこねこねこねこね  
こねこねこねこねこね  
こねこねこねこねこね  
こねこねこねこねこね  
こねこねこねこねこね  
こねこねこねこねこね



東京 オフィスビルのなかのスタジオ  
5/11 松本  
かなしいやつをふわふわにつつんで両手に持って決めた道をいくしかないとおきあがりおしりをふりにいった。おしりのにくはぶるぶるふるえた。ふるえるのはきもちがいいとおもった。



女人四股ダンスのためのメモ

# チーム・チープロ

公演日程：  
 10.8 (土) 15:00★  
 10.9 (日) 13:00 / 16:00★  
 10.10 (月・祝) 15:00  
 ★ポスト・パフォーマンス・トーク

上演時間：  
 75分 (予定)  
 ※受付開始は開演の60分前、開場は30分前

言語：  
 日本語 (英語字幕あり)

会場：  
 THEATRE E9 KYOTO

前売：  
 一般 2,500円  
 ユース (25歳以下) ・学生 2,000円  
 高校生以下 1,000円  
 ペア 4,500円 (前売のみ)  
 \* 当日券は+500円 (高校生以下は同額)  
 \* 自由席

振付・構成：松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ  
 出演：松本奈々子  
 振付コラボレーター・出演：内田結花、前田耕平  
 映像デザイン：安倍大智  
 舞台監督：小林勇陽  
 照明：渡辺佳奈  
 音響：林実菜  
 制作：芝田江梨、奥山愛菜・木元太郎 (THEATRE E9 KYOTO)  
 プロダクションマネージャー：北方こだち  
 テクニカルアドバイザー：吉本有輝子 (真昼)  
 字幕翻訳：河合京花

協力：有楽町アートアーバニズムプログラム YAU、  
 一般社団法人ベンチ、豊岡演劇祭 2022  
 製作：チーム・チープロ  
 共同製作：KYOTO EXPERIMENT  
 助成：一般財団法人地域創造 [Intergenerational Thinking  
 - 世代間の対話]  
 主催：KYOTO EXPERIMENT

2021年度シーズン文化財団 滞在アーティスト | 令和3年度文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2022  
 10.1 (土) - 10.23 (日)  
 主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会 [京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO (一般社団法人アーツシード京都)]

問合せ  
 KYOTO EXPERIMENT 事務局 (11:00 - 19:00 日曜・祝日休。開催期間中は無休)  
 〒604-0862 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F  
 TEL: 075-213-5839 WEB: kyoto-ex.jp

# 女 人 四 股 ダ ン ス



二年をかけて集められた膨大なリサーチを身体に取り込んだ松本と西本。ふたりが繰り出すダンスとテキストが、その絶妙な駆け引きによりぶつかり合い呼応する本作。レクチャー・パフォーマンスの新たな「土俵」が開かれるかも。



©Yoshiro Masuda



KYOTO EXPERIMENT初の公募プロジェクトで選出され、二年にわたりリサーチと制作に取り組んできた、松本奈々子と西本健吾によるパフォーマンス・ユニット「チーム・チープロ」。

二〇二一年にリサーチを開始したふたりが最初に掲げたテーマは「ワルツ」だった。コロナ禍で「接触」が憚られるなか、京都に存在したとされるダンス芸妓の史実を起点に戦前京都と現代と接続し、想像上の他者とワルツを踊る作品を発表。続く二〇二二年は「女性の身体性」と「触れること / 触れられないこと」についてのリサーチを進展させ、「月経の再魔術化」をテーマとした作品を発表する。習俗と科学的な言説が交差しながら意味づけられてきた「月経」。本作では科学的な知識や理解を重視しつつも、それだけでは扱いきれない月経の不条理とともに踊るための「儀式」が執り行われる。そこで導き出されるのは、股を開き、地面を踏みしめる「四股ダンス」!? 自ら「NEO子宮系ムーブメント」と称するパフォーマンスは、四股という型を手がかりに社会の境界を軽妙に越境していく。

二年をかけて集められた膨大なリサーチを身体に取り込んだ松本と西本。ふたりが繰り出すダンスとテキストが、その絶妙な駆け引きによりぶつかり合い呼応する本作。レクチャー・パフォーマンスの新たな「土俵」が開かれるかも。

## 前田耕平

1991年和歌山生まれ。2017年京都市立芸術大学大学院 美術研究科絵画専攻構想設計修了。人や自然、物事との関係や距離に興味を向けて、自身の体験を手がかりに、映像やパフォーマンスなど様々なアプローチによる探求の旅を続けている。プロジェクトに南方熊楠の哲学思想を追った「まんだらば」や、愛の形を探る「Love Noise」などがある。近年の展覧会に「パンガシアノドン ギガス」京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA (2019 / 京都) 個展、「紀南アートウィーク2021」南方熊楠顕彰館 (2021 / 和歌山)、「群馬青年ビエンナーレ2021」群馬県立近代美術館 (2021 / 群馬県) などがある。現在、「高瀬川モニタリング部」部長として川の生態観察を進行中。

## 内田結花

1987年生まれ、大阪出身在住。ストリートダンスを基に踊りをはじめ。2010年近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻卒業。2013年文化庁・NPO法人DANCE BOX主催「国内ダンス留学@神戸」第2期参加を機にダンサーとして、黒沢美香、紅玉、ジェコンソノボ、セレノグラフィカなどの様々な振付家・作家の作品に出演する。近年では、自作自演のソロ作品の発表に加えて、ダンサーの中根千枝との協働作品「暮らし」をシリーズ化し、屋内外問わず様々な環境で発表を続ける。「暮らし」シリーズのひとつ『移動する暮らし』は、2020年度KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 最終審査会に選出される。2021年「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」出展。



©越後谷出

## チーム・チープロ

松本奈々子と西本健吾によるパフォーマンス・ユニット。身体と身振りの批評性をテーマに活動してきた。近年は、都市における具体的な場所や時間から一つのステップを見出し、そのステップが喚起する複数のコンテキストとパフォーマーの身体感覚や記憶の交差をあつかうダンス作品を制作している。主な作品に『20世紀プロジェクト』(2017-2018)、『皇居ランニングマン』(2019-2020)、「京都イマジナリー・ワルツ」(2021) など。



チケットの購入はこちら  
 KYOTO EXPERIMENT チケットセンター オンライン



zine 制作○イメージカット写真：前澤秀登 (主催：アーツカウンシル東京 2021 年度トライアル事業「未来の踊りのためのプログラム」)  
 月経日記：内田結花、前田耕平、松本奈々子イラスト：前田耕平 ロゴ：細谷修三  
 デザイン：関あゆみ

